

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所はっぴーはうす 放課後等デイサービスびいす		
○保護者評価実施期間	令和7年12月8日		～ 令和7年12月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 26日		～ 令和7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に応じた個別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活や家庭での様子を踏まえた柔軟な支援調整ができています。</li> <li>・得意なことを伸ばし、成功体験を積み重ねる支援を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家庭からの情報も積極的に取り入れ、多面的な視点で支援計画を見直す。</li> <li>・集団が苦手な児童には段階的な参加支援を行う。</li> </ul>
2	多機能型事業所としての継続支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援からの継続利用により、成長過程を長期的に把握できる。</li> <li>・切れ目のない支援により、安定した関わりを提供している。</li> <li>・支援の振り返りを行い、改善につなげる姿勢がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用開始時に過去の支援記録や有効だった関わり方を丁寧に引き継ぐ仕組みを整備する。</li> <li>・保護者と定期的に振り返りを行い、共通理解を深める。</li> <li>・事業所内での情報共有体制をさらに強化し、支援のばらつきを防ぐ。</li> </ul>
3	職員のチーム支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な打ち合わせやケース会議を通して支援方法を共有している。</li> <li>・支援の振り返りを行い、改善につなげる姿勢がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のミーティングを継続し、児童の様子や対応方法を具体的に共有する。</li> <li>・年間研修計画を作成し、段階的な育成を行う。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の専門性のさらなる向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達特性や行動面の課題に対する専門的アプローチについて、職員間で知識・経験に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達特性・行動分析・感覚統合・SST等をテーマに継続的に学ぶ機会を設ける。</li> <li>・事例検討を定期的で開催し、実践に結びつける。</li> </ul>
2	個別支援計画の具体性・評価の精度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定が抽象的になることがあり、短期目標の達成度評価が十分でない場合がある。</li> <li>・PDCAサイクルの徹底が今後の課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画→実施→評価→改善を明確化。</li> <li>・ケース会議で支援意図を共有。</li> </ul>
3	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書類業務が職員の負担となり、支援準備時間が圧迫されることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の業務を「直接支援」「間接業務」「事務作業」に分類し、整理する。</li> <li>・月1回の業務振り返り。</li> </ul>